

住・産共用フレキシブル蓄電システム KPAC-B25/KPAC-B25-S

停電時の使い方（自立運転モードの使い方）

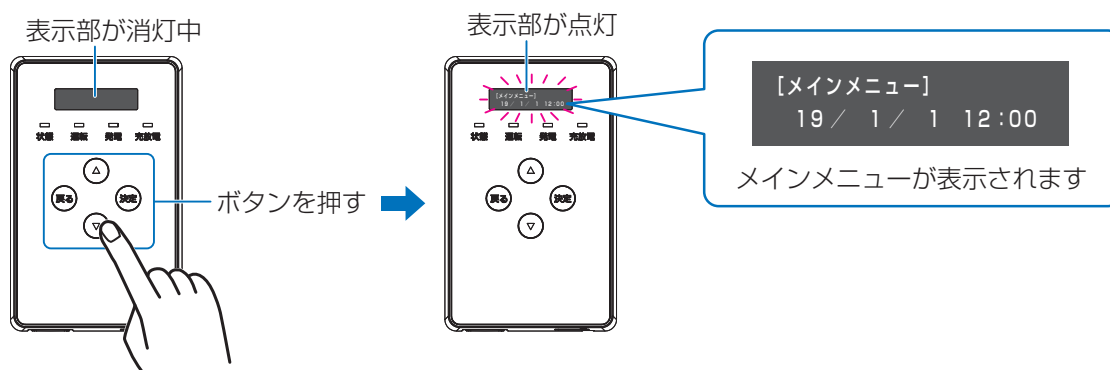
本紙は停電時のシステムの機能および使用方法を説明しています。安全にお使いいただくために、本紙とあわせて、取扱説明書に記載されている「安全上のご注意」を必ずお読みください。

停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、自動で連系運転から自立運転に切り替わるため、お客様での切り替え操作は必要ありません。自立運転に切り替わると、特定負荷用分電盤に接続している電気製品やコンセントに蓄電池ユニットに蓄えた電力または太陽光発電の発電電力が供給されます。

ゲートウェイの基本操作

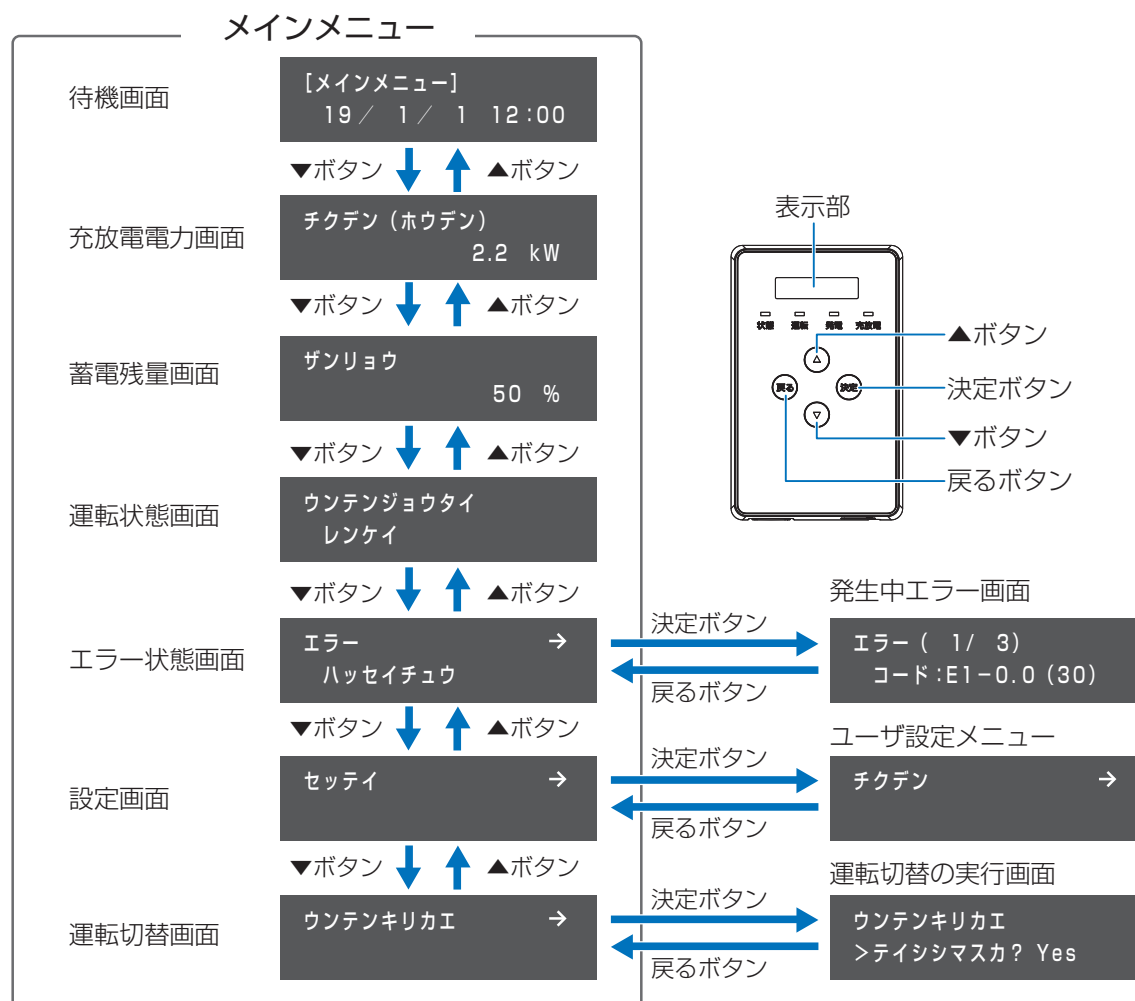
1 いずれかのボタンを押して表示部を点灯させる

- 表示部は 10 分間操作をしないと消灯します。



2 ▲/▼ボタンを押してメインメニューを切り替える

- ゲートウェイの基本画面を「メインメニュー」と呼びます。詳しくは取扱説明書をお読みください。



- 表示部に ➡ がある項目は決定ボタンを押すと、次の階層に進みます。



システムの運転の切り替え

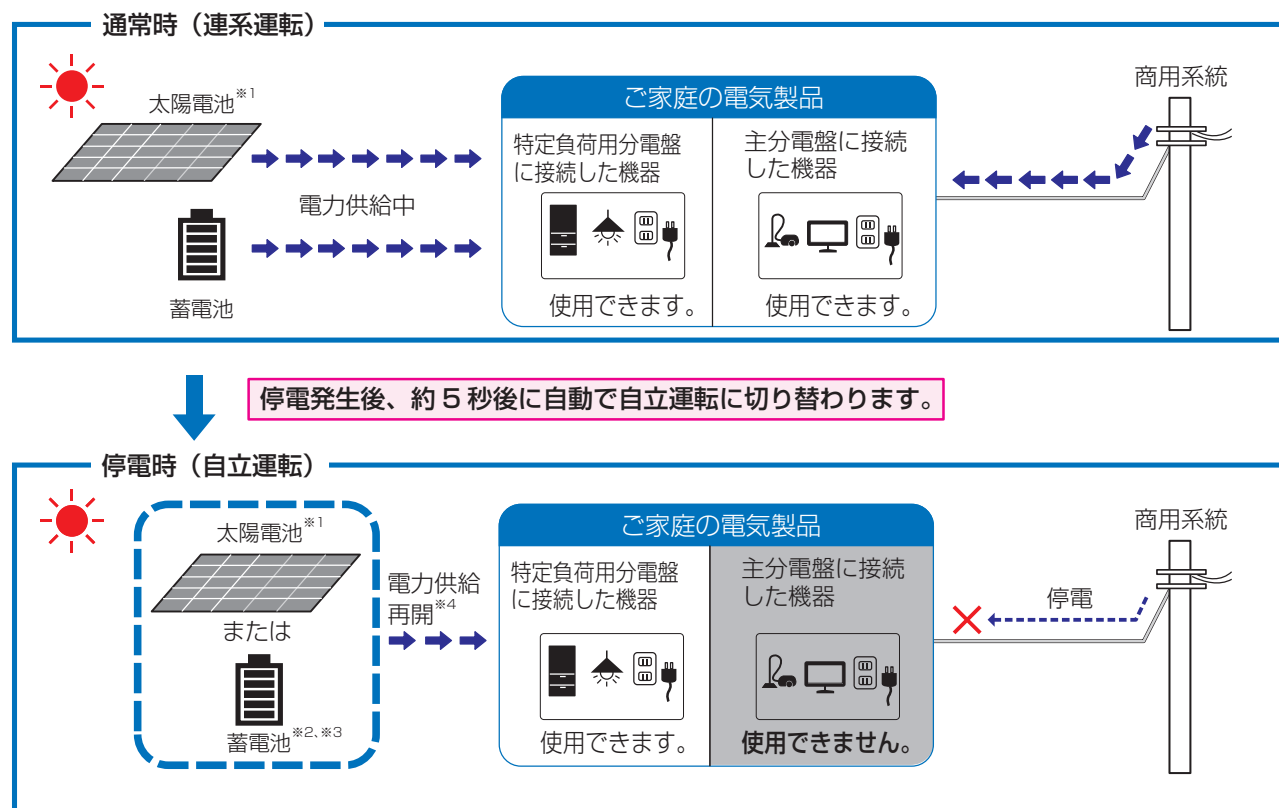
停電時（自立運転への自動切り替え）

停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、自動で連系運転から自立運転に切り替わるため、お客様での切り替え操作は必要ありません。自立運転に切り替わると、特定負荷用分電盤に接続している電気製品やコンセントに蓄電池ユニットに蓄えた電力または太陽光発電の発電電力^{*1}が供給されます。

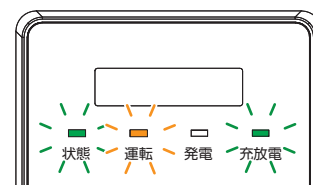
- **システム併設** ソーラーパワーコンディショナの自立運転への切り替えについては、ソーラーパワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

停電時に備えて、どのコンセント（もしくは電気製品）が特定負荷用分電盤に接続されているかを、確認しておいてください。

（下記はイメージ図です）



- 自立運転中は、ゲートウェイの運転ランプが、橙色に点灯します。充放電ランプは充電中は橙色、放電中は緑色に点灯します。



- ※ 1. **システム併設** のみ
- ※ 2. 蓄電池ユニットの過放電防止のため、停電時は規定の蓄電残量である 10% になると放電を停止します。その後、蓄電残量が 20% 以上まで充電されると、放電を再開します。「SOC カゲン」(⇒ 取扱説明書) を 10% 以下に設定すると、停電時に電気をすぐに使用できない場合があります。
- ※ 3. 「テイデンジモード」が「タイヨウコウキュウデン」もしくは「ジドウ」に設定されている場合、太陽光発電から蓄電池に充電される場合があります。供給する電力は、「テイデンジジウデン」の設定によって異なります。(⇒ 取扱説明書)
- ※ 4. 電力供給元は、「テイデンジモード」の設定に従って供給されます。(⇒ 取扱説明書)

システムの運転の切り替え（つづき）

◆ 停電時に使用する場合のご注意

- 特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントには、突然停止しても安全性に問題がない電気製品を接続してください。下記の電気製品は特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントに接続しないでください。
 - すべての医療機器
 - 灯油やガスを用いる冷暖房機器やヒータを持つ機器
 - デスクトップパソコンなどのバッテリーを持たない情報機器
 - その他、途中で止まると生命や財産に損害を及ぼす機器
- 特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントに接続している電気製品の合計消費電力は、2000VA 以下（AC 100V で最大 20A 以下）になるようにしてください。
- 蓄電池ユニットの電池残量や太陽光発電の発電量（**システム併設**のみ）などにより 2000VA の電力が供給されない場合があります。
- 電気製品によっては定格のワット数（W）以上の電力（VA）を消費するものがあります。そのため、定格のワット数（W）が「2000」以下であっても使えない場合があります。
- 特定負荷用分電盤または特定負荷用コンセントに接続する電気製品を安定してお使いいただくため、また停電時により長い時間お使いいただくため、接続する電気製品の合計電力（W）は 500W 程度に抑えることをお勧めします。
- 停電時に万一、特定負荷用コンセントに接続した電気製品が使えない場合は、特定負荷用コンセントから外してください。
- 停電時に万一、特定負荷用分電盤に接続した電気製品が使えない場合は、電気製品が接続されている分岐ブレーカを「オフ」にしてください。
- 蓄電池の電池残量が残り少なく、放電できない場合は、表示部に「C9-3.0」（放電停止 SOC 到達）が表示されます。蓄電池の電池残量が 0% になると、表示部に「C9-1.0」（蓄電残量低下（停電時））が表示され、約 30 分後にシステムの電源が切れ、待機状態になります。（パワーセーブモード）
- **システム併設** 蓄電池の電池残量が 0% になっても、下記の設定条件を満たしていれば、太陽光発電している場合は蓄電池に充電することができます。
 - 「テイデンジモード」の設定が「タイヨウコウキュウデン」もしくは「ジドウ」（⇒ 取扱説明書）
 - 「テイデンジユウデン」の設定が「0W」以外（初期値は 0W です。設定を変更する必要があります。）（⇒ 取扱説明書）
- システムの電源が切れた場合は、復電後に再起動します。長期に渡ってシステムの電源が切れた場合は、再起動後に日時設定画面が表示されます。（⇒ 取扱説明書）再設定を行ってください。

◆ 自立運転を停止させるには

6 ページに記載している「運転 / 停止の手動切り替え」の操作で停止させてください。

- 自立運転の停止中に復電した場合は、自動で連系運転に切り替わりません。再度「運転 / 停止の手動切り替え」（⇒ 6）の操作で運転を再開し、連系運転に切り替えてください。

◆ 自立運転が自動的に停止した場合は

掃除機や冷蔵庫など、電流が急激に流れる機器を使用すると、保護機能が働いて運転が停止することがあります。運転が停止した場合は、特定負荷用分電盤に接続している機器の一部を停止し、消費電力を少なくしてください。

（**システム併設**）「テイデンジモード」の設定が「タイヨウコウキュウデン」もしくは「ジドウ」に設定している場合（⇒ 取扱説明書）は、「テイデンジユウデン」の設定を小さな値に変更してください。（⇒ 取扱説明書）数分後に自動で自立運転を再開します。

自動で自立運転を再開しない場合は、6 ページに記載している「運転 / 停止の手動切り替え」の操作で一旦停止させて、再度運転させてください。

システムの運転の切り替え（つづき）

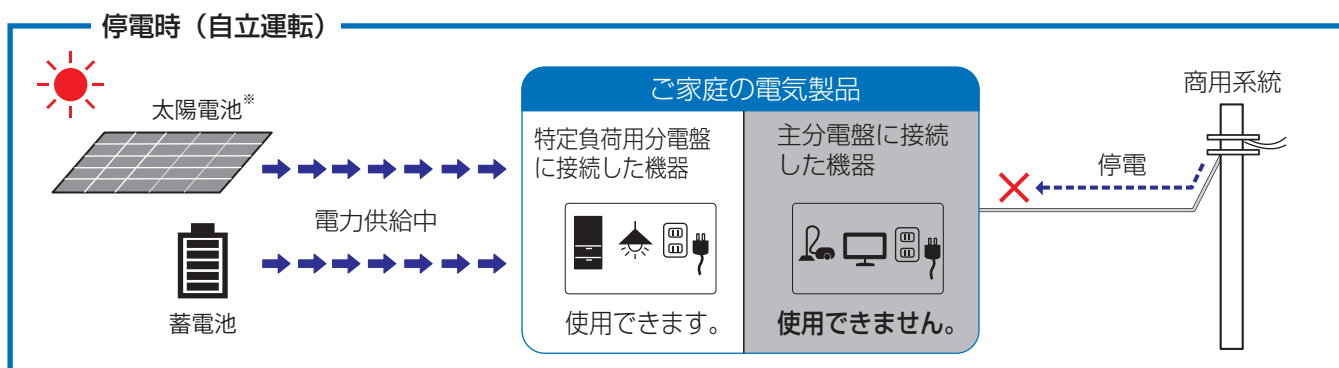
復電時（連系運転への自動切り替え）

復電すると自動で自立運転から連系運転に切り替わるため、お客様での切り替え操作は必要ありません。

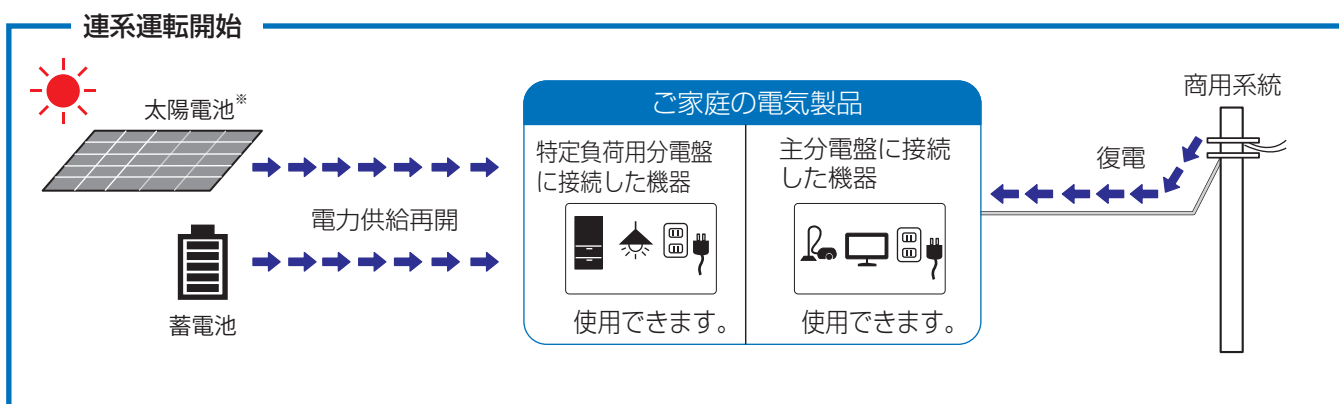
メインメニューの「ウンテンジョウタイ」で「レンケイ」と表示されているか確認してください。（⇒ 2）

- **システム併設** ソーラーパワーコンディショナの連系運転への切り替えについては、ソーラーパワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

（下記はイメージ図です）

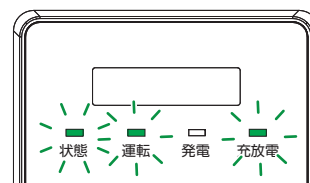


復電後、最大 5 分程度で自動的に連系運転に切り替わります。



- 連系運転中は、ゲートウェイの運転ランプ緑色に点灯します。充放電ランプは充電中は橙色、放電中は緑色に点灯します。

※ **システム併設** のみ



運転 / 停止の手動切り替え

- システムは自動で運転状態を継続しますので、日常での運転 / 停止の切り替えは不要です。手動でパワーコンディショナの運転停止 / 再開をする場合は、下記操作で行ってください。
- 長時間の運転停止は行わないでください。運転停止状態が長時間続くと、蓄電池ユニットが完全放電し、蓄電池ユニットが使用できなくなる場合があります。

運転を停止する

- 1 メインメニュー(⇒ 2) 表示中に▲ / ▼ボタンで「ウンテンキリカエ」を選び、決定ボタンを押す
- 2 ▲ / ▼ボタンで「Yes」を選択し、決定ボタンを押す
 - 「ジッコウチュウ ...」の表示後に、システムが運転を停止します。
- 3 戻るボタンを押して、メインメニューに戻る
- 4 ▲ / ▼ボタンで「ウンテンジョウタイ」を選択し、運転が切り替わっていることを確認する

ウンテンキリカエ →

ウンテンキリカエ
> テイシマスカ? Yes



ウンテンキリカエ
ジッコウチュウ...

ウンテンキリカエ →

ウンテンジョウタイ
テイシ

運転を再開する

- 1 メインメニュー(⇒ 2) 表示中に▲ / ▼ボタンで「ウンテンキリカエ」を選び、決定ボタンを押す
- 2 ▲ / ▼ボタンで「Yes」を選択し、決定ボタンを押す
 - 「ジッコウチュウ ...」の表示後に、システムが運転を停止または開始します。
 - 投入遅延時間*が経過すると、システムの運転を開始します。
 - ※ 投入遅延時間とは、連系運転中に商用系統側で停電等の異常が発生したあと、配電側の電気が復旧し、パワーコンディショナが運転再開するまでの時間です。
- 3 戻るボタンを押して、メインメニューに戻る
- 4 ▲ / ▼ボタンで「ウンテンジョウタイ」を選択し、運転が切り替わっていることを確認する

ウンテンキリカエ →

ウンテンキリカエ
> カイシマスカ? Yes



ウンテンキリカエ
ジッコウチュウ...

ウンテンキリカエ →

ウンテンジョウタイ
レンケイ

上記の操作は、パワーコンディショナの運転許可スイッチが「オン」(⇒ 取扱説明書) 状態のときにのみ可能です。

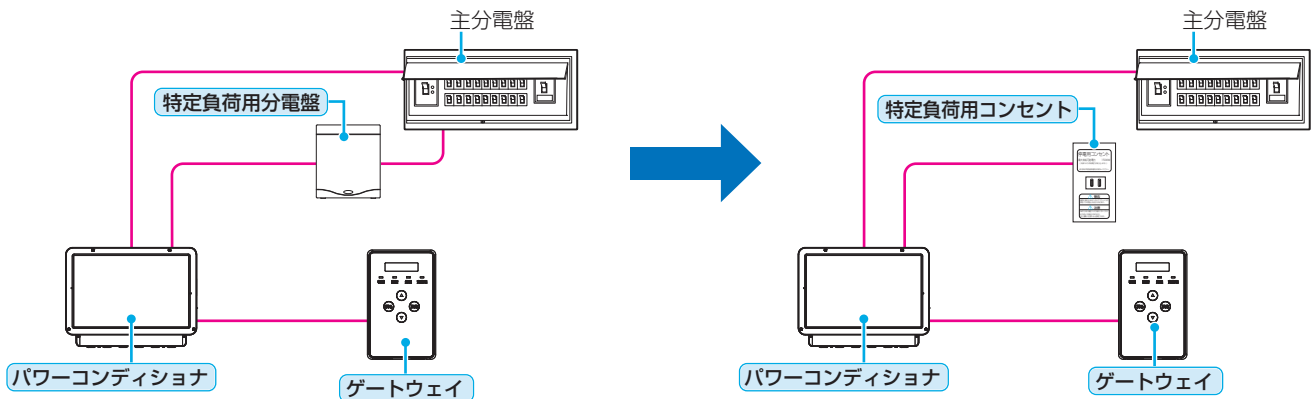
- 運転許可スイッチが「オフ」状態のときは、「ウンテンキリカエ タイショウナシ」が表示されます。

特定負荷用分電盤を使用しないシステムについて

特定負荷用分電盤を含まないシステムの場合は下記をお読みください。

◆ システム構成について

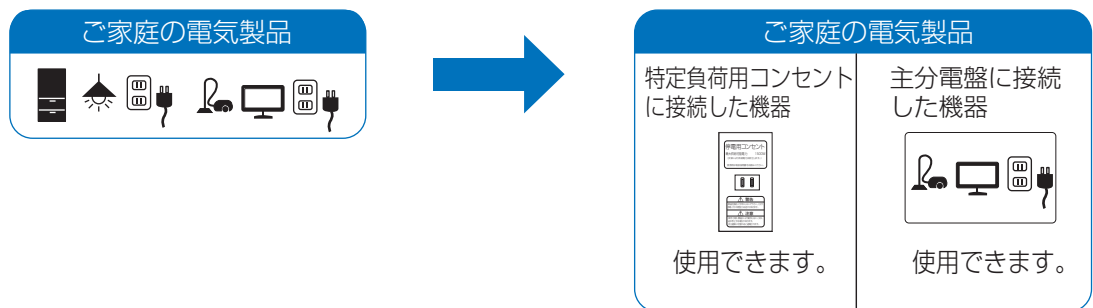
「システム構成と各機器の働き」(⇒ 取扱説明書)のパワーコンディショナと特定負荷用分電盤を下図に読み替えてください。



◆ 家庭内の電気の流れについて

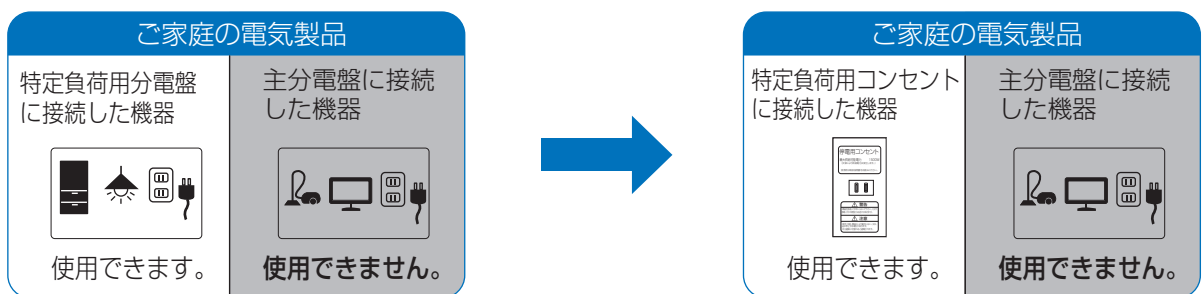
1 通常時は特定負荷用コンセントに接続した電気製品に電力が供給されます。

「連系運転について」(⇒ 取扱説明書)の「ご家庭の電気製品」を下図に読み替えてください。



2 自立運転時は特定負荷用コンセントに接続した電気製品に電力が供給されます。

「自立運転について」(⇒ 取扱説明書)に記載している「ご家庭の電気製品」を下図に読み替えてください。



特定負荷用分電盤を使用しないシステムについて（つづき）

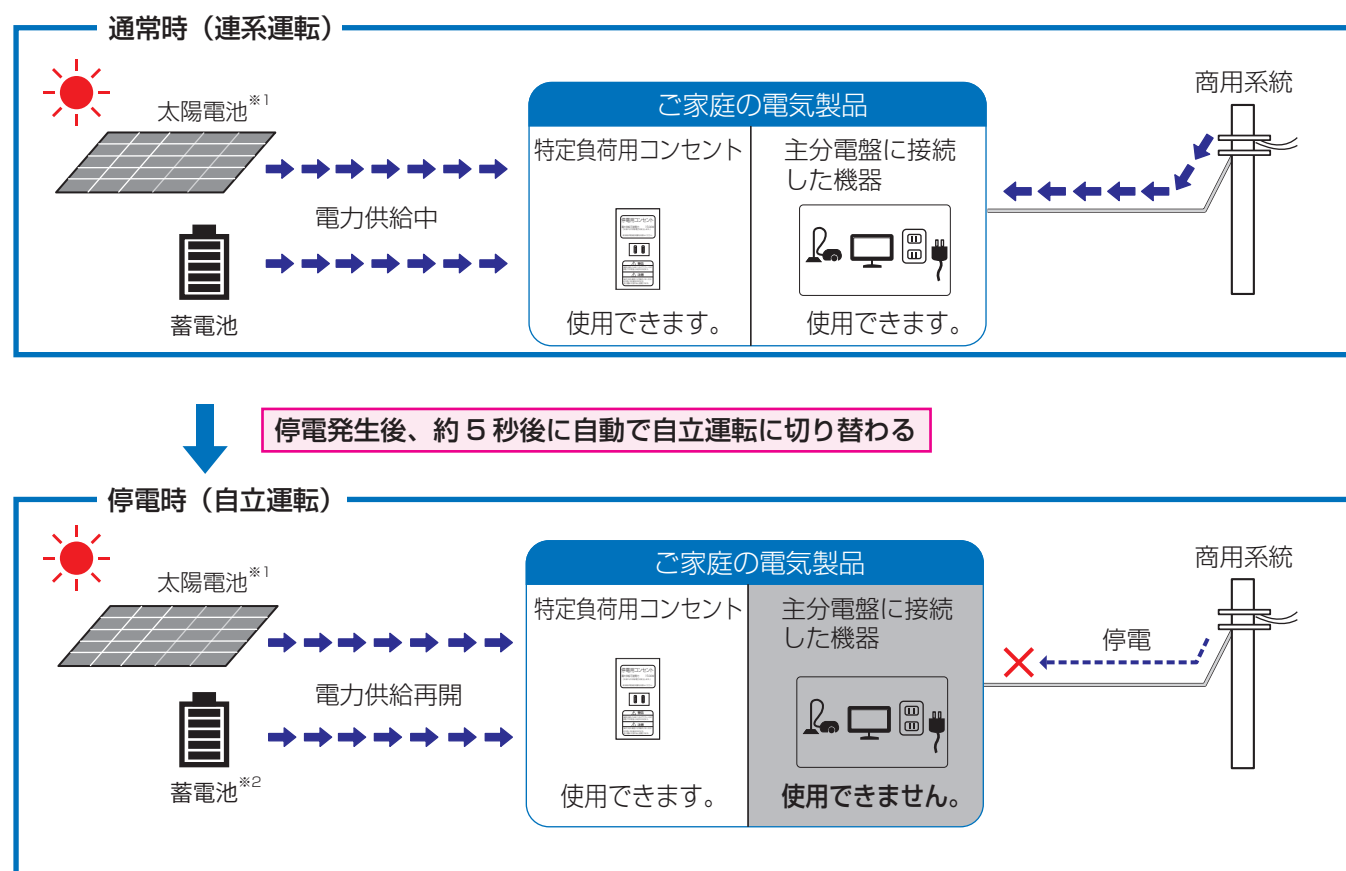
◆ 停電時の使い方（自立運転への自動切り替え）

停電などで電力会社からの電力供給が停止すると、自動で連系運転から自立運転に切り替わるため、お客様での切り替え操作は必要ありません。メインメニューの「ウンテンジョウタイ」で「ジリツ」と表示されているか確認してください。（⇒ 2）

自立運転に切り替わると、特定負荷用コンセントに蓄電池ユニットに蓄えた電力または太陽光発電の発電電力^{※1}が供給されます。

- 停電発生後、特定負荷用コンセントに、使用したい電気製品を接続してください。
- **システム併設** ソーラーパワーコンディショナの自立運転への切り替えについては、ソーラーパワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

（下記はイメージ図です）



※ 1. **システム併設** のみ

※ 2. 蓄電池ユニットの過放電防止のため、停電時は規定の蓄電残量である 10% になると放電を停止します。その後、蓄電残量が 20% 以上まで充電されると、放電を再開します。「SOC カゲン」（⇒ 取扱説明書）を 10% 以下に設定すると、停電時に電気をすぐに使用できない場合があります。

- 特定負荷用コンセントに接続する電気製品の合計消費電力は、2000VA 以下（AC 100V で最大 20A 以下）になるようにしてください。
- 特定負荷用コンセントに接続した電気製品が動かない場合、特定負荷用コンセント用ブレーカがオフになっている可能性がありますので確認してください。

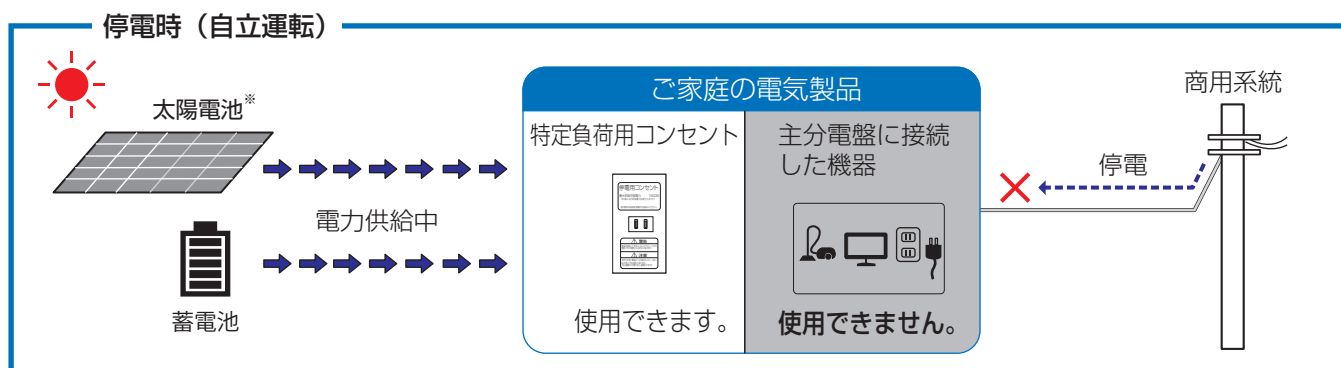
特定負荷用分電盤を使用しないシステムについて（つづき）

◆ 復電時には（連系運転への自動切り替え）

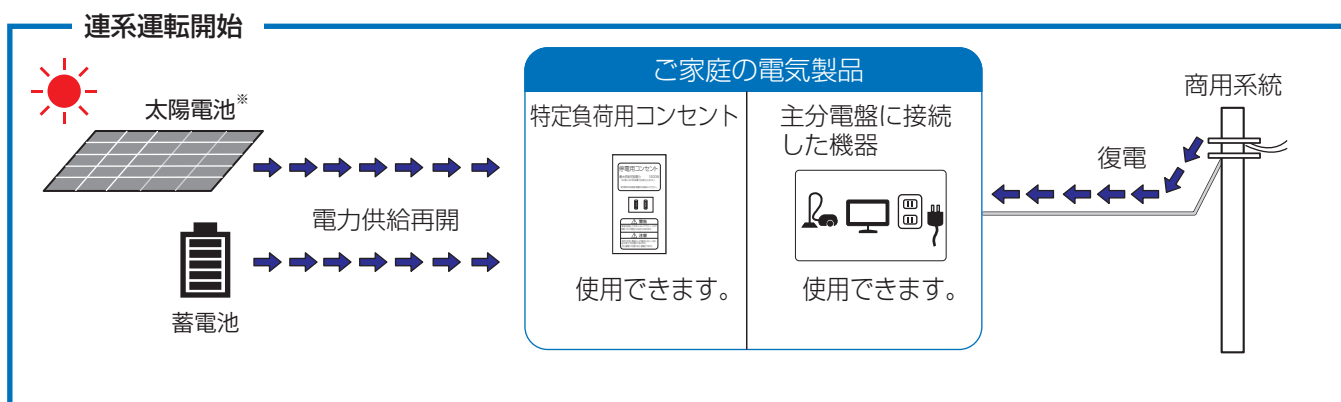
復電すると自動で自立運転から連系運転に切り替わるため、お客様での切り替え操作は必要ありません。
メインメニューの「ウンテンジョウタイ」で「レンケイ」と表示されているか確認してください。（⇒ 2）

- **システム併設** ソーラーパワーコンディショナの連系運転への切り替えについては、ソーラーパワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

（下記はイメージ図です）



復電後、最大 5 分程度で自動的に連系運転に切り替わります



* **システム併設** のみ